

令和6年度(2024年度) 学校評価総括表【伊丹市立神津小学校】

教育目標			たくましく しなやかに							
重点目標			○非認知能力の育成 ○豊かな心の育成 ○生きて働く学力の育成							
主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価		
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	・学校全体の学力の底上げを図る。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。 ・子どもの自己肯定感や学力の向上につながる非認知能力を育成する。	・かみつつ子タイムなどを通じて、個に応じた指導を取り入れていく。 ・家庭学習ががんばり週間を通して、保護者と協力しながら学習習慣をつけていく。 ・独自の国語プリントに継続的に取り組み、言葉の力を積み上げていく。 ・「わかった」「できた」を積み上げる授業改善に取り組む。 ・励まし、勇気づける関わりを徹底する。	・保護者アンケートで「子どもは、熱心に家庭学習に取り組んでいる」と答える保護者が80%を超えている。 ・児童アンケートの「ねばり強さ」の項目で、肯定的な回答が90%以上になる。	C	・保護者アンケートの「子どもは、家庭での学習習慣がしっかり身についている」という項目で肯定的な回答(よくあてはまる、ややあてはまる)が80.6%であった。かみつつ子タイムで個別指導を行うことで、学習が苦手な児童も日々の学習に前向きに向かうきっかけとなった。家庭ががんばり週間を通して、学習習慣を見つめ直す機会にすることができた。 ・「わかった」「できた」を積み上げる授業の工夫の一環として、学びの必然性を取り入れた授業が多く見られた。児童アンケートの「ねばり強さ」の項目では肯定的回答が約75%にとどまった。引き続き、励まし、勇気づける関わりを続ける必要がある。	・かみつつ子タイムは今年始めた取り組みなので、来年度も経過を見ていく。 ・すべての児童に学習習慣が身につくよう、家庭と連携した効果的な取り組みを期待したい。	・かみつつ子タイム等、学習が苦手な児童が前向きに学習に取り組めるよう丁寧に指導していただいている。 ・すべての児童に学習習慣が身につくよう、家庭と連携した効果的な取り組みを期待したい。	
		新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成	・学校や家庭学習で積極的にタブレット端末を使用する。 ・情報モラルを育成する。	・各教科の学習活動において、調べ学習やプレゼンテーションを取り入れる。 ・デジタル教材を使用することで、個に応じた課題に家庭学習で取り組む。 ・学団ごとに情報モラルの育成目標を設定し、各学団で、「ひょうごGIGAワークブック」等を活用して目標達成に向けて取り組む。	・タブレット端末を用いて調べ学習やプレゼンテーションをすることができ。 ・タブレット端末を活用して、個に応じた学習に取り組むことができる。 ・児童・保護者アンケート「タブレット端末を使う上で、学校やお家でのルールを守って安全に使うことができる。」で、できるという回答が80%を超える。	B	・総合的な学習の時間を中心に調べ学習やプレゼンテーションをすることができた。 ・AI搭載のデジタルドリル『ドリルパーク』を学校平均3時間使用し、個に応じた学習に十分に組み組めたと言える。 ・児童・保護者アンケート「タブレット端末を使う上で、学校やお家でのルールを守って安全に使うことができる。」で、肯定的な回答が約91%で目標を達成した。	・スマートフォンでのトラブルが昨年増えてきているため、生活指導と連携し、スマートフォンやSNSの使用の仕方など情報モラルの教育に注力していく。	・積極的にタブレット端末を活用されている。引き続き、成長段階に応じた効果的な使用とともに、デジタルドリルを積極的に活用し、基礎学力の定着に生かしてほしい。	
		「豊かな心」の育成 ①道德教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	・問題行動を起こさせないために、きめ細かな指導を行う。 ・児童の様々な問題を早期発見するように努め、迅速に対応する。 ・新たな不登校児童を出さないため、不登校傾向の児童へできるだけ早く働きかける。	・居心地の良い学級作りをするために、児童の様子を職員間で共有し、たくさん目で児童を見る。 ・いじめアンケートを実施し、必要に応じていじめ問題対策委員会を開き、すべてのいじめ案件について対策を考える。 ・欠席、遅刻などの連絡がない場合は、午前9時までに初期対応を行う。	・児童アンケートの「先生は自分の意見をよく聞いてくれ、悩みや不安についても相談にのってくれる。」と回答する割合が90%以上になる。 ・把握した全てのいじめ事案において、解消への取り組みを徹底する。 ・新たな不登校児童を出さないため、また連続で長期欠席する児童が出ないように、児童の状況に合わせた多様な対策を実施する。	B	・どの教員も児童の話をよく聞いて、じっくり相談にのっていた。しかし「先生は自分の意見をよく聞いてくれ、悩みや不安についても相談にのってくれる。」と回答する割合が80%だった。 ・把握したいじめ事案は全てしっかり児童に話を聞き、全案件解決した。 ・担任やたくさんの教員で連携し、不登校児童は少なく、1月末時点で、年度末30日欠席になりそうな児童は0～2人になりそう。ただ行き渋りがある児童は数人いる。	・自分の言動を全て肯定してほしい児童が増えてきているため、教師が児童に平等に指導しても不満を持つ児童がいる。今でもどの教員も丁寧に話をしているが、今後も不満が大きくなる前に児童の表情をよく観察して声かけをしたり、1対1の対話を丁寧にしたり、個々を大事にしていきたい。	・先生方は丁寧に児童とかかわっておられると思う。気になる児童だけでなく、個々の対話をさらに大切にしたいいただき、すべての子どもの成長につなげてほしい。	・不登校がほとんどないのは、先生方の細やかな対応のおかげだと思う。欠席した児童には、早めに電話、家庭訪問をするなど、引き続き、児童が安心して登校できるようにお願いしたい。
		「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②発達段階に応じた健全な食育の推進	・運動に親しみ、自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。 ・運動委員会を中心に、業間体育の企画を実施する。 ・年間カリキュラムに沿って、多様な動きを授業の中に取り入れる。	・運動委員会において、「運動やスポーツをすることが好き」の肯定的回答が85%をこえる。 ・年間カリキュラムに沿って、体ほぐし、陸上運動、器械運動、ボール運動の内容をどの学年でも行うことができた。	B	・児童アンケートでは、「運動やスポーツをすることが好き」の肯定的回答が79.1%で85%を越えなかった。 ・年間カリキュラムに沿って、体ほぐし、陸上運動、器械運動、ボール運動の内容をどの学年でも行うことができた。	・業間体育の企画を増やして、児童が楽しく運動ができる機会を増やす。 ・体育の授業で、児童の成功体験を増やし、「もっとやりたい」と思えるような授業づくりをする。	・全国体力・運動能力調査の結果は全国平均を上回っており、一定の力はつけていただいていると評価できる。 ・運動が好きな子が増えるよう、楽しい体育の授業づくりとともに、芝生の運動場で積極的に外遊びする働きかけをしてほしい。		
	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	・児童や保護者の困り感に応じて、SCやSSW等と連携し、適切な対応を行う。	・部会や研修会において児童の現状を把握し、組織的な支援を行う。 ・不安や悩みを抱える児童や保護者が相談しやすいよう、SCや相談機関等の情報を積極的に発信する。	・毎月1回以上、部会や研修会で情報共有や対応の検討を行う。 ・保護者アンケートの「学校は、保護者の思いを聞き、子どものことを相談できる」の項目で、肯定的な回答が90%以上になる。	B	・部会や研修会等で児童の情報を共有し、必要に応じて関係機関と連携して対応することができた。 ・保護者アンケートの学校への相談のしやすさについての項目は肯定的な回答が95.3%だった。一方で、保護者との情報共有や連携が不十分なこともあった。	・日頃の保護者とのコミュニケーション(電話・家庭訪問等)の充実について検討し実践する。	・子どもの成長には、学校と保護者の信頼関係が欠かせないと思う。忙しい中でも、積極的な保護者とのコミュニケーションを大切にほしい。		
	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	・すべての子どもにとって居心地の良い学級作り、わかる授業作りをめざし、学校全体で支援体制を整える。	・毎月の部会を中心に、支援の必要な児童の情報共有を行い適切に支援を行う。・研修会や相談事業などを通して、教員の特別支援教育に対する理解を深め、指導力の向上に努める。	・教員アンケートの「児童の実態に応じて支援方法を工夫し適切な支援を行うことを努めた」の項目で肯定的意見が9割以上になる。 ・教員アンケートの「特別支援教育に関する研修会に参加したり支援方法の情報収集をしたりし、指導力向上に努めた」の項目で肯定的意見が9割以上になる。	C	・支援方法の工夫については、肯定的意見が10割で、各担任が適切な支援に努めることができた。 ・指導力向上に努めたでは、肯定的意見が8割弱であった。校内研修会や、市内実践講座等への参加などで研修に努め、児童への指導に生かす場面も見られたが十分でないと感じる教員も多かった。	・指導力向上については、教員個々に応じて取り組むことが大事だが、そのために必要な情報提供や本校の実情に合った内容で、校内研修会を設けることで改善に努める。	・支援方法を工夫、適切な支援に努めてくださっているのはありがたい。 ・引き続き、校内や校外の特別支援教育研修を通して、さらに特別支援教育への理解を深め実践力の向上に努めてほしい。		
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	・学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な取組を活性化させる。 ・創立150周年記念事業を通して、地域や保護者とともに子どもたちを「たくましく しなやかに」育んでいく気運を高める。	・神津っ子ちよこつと応援サポーターを活用し、学校の環境整備や学習支援を充実する。 ・学校・PTA・地域で協働し、子どもを主眼に置いた創立150周年事業に取り組む。	・神津っ子ちよこつと応援サポーターの登録者数を30名以上にする。 ・全児童をはじめ、教職員、保護者や地域とともに、創立150周年事業をやり遂げる。	B	・神津っ子ちよこつと応援サポーターに34名の方の登録があり、校内の環境整備等に尽力してくださった。 ・サポーターの活動が学習支援などに広げることができなかった。 ・子どもたち、そして教職員・保護者・地域がともに作り上げる創立150周年事業となった。	・神津っ子ちよこつと応援サポーターの活動を広げるなど、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な取組をさらに活性化し、地域との協働体制の構築を図る。	・神津っ子ちよこつと応援サポーターが、月1回校内の環境整備をすることができた。来年度は、学校のニーズも踏まえながら、さらに学習支援等を活性化してほしい。		
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	・有事の際に児童を安全かつ確実に保護者へ引き渡せるよう、防犯訓練・防災訓練の充実を図る。 ・児童の生活実態を把握し、安全な学校生活が送れるように指導する。 ・安全についての意識を高め、環境を整備する。 ・児童が安全かつ確実に登下校ができるよう、交通安全対策を推進する。	・年に3回の防犯、防災訓練を実施する。 ・廊下、階段での正しい歩き方を身につけさせる。 ・月1回の安全点検を実施する。 ・登校指導を定期的に実施し、生活指導と連携しながら、登下校時の学級指導を行う。	・有事の際、児童を安全かつ確実に保護者へ引き渡すことができる。 ・校内での衝突や転倒等による重大事故を0にする。 ・登下校時の交通事故を0にし、児童が毎日安全に登下校できる。	B	・学期に1回の防犯、防災訓練を実施することができた。 ・月1回の安全点検を行い、安心な教育環境を確保することができた。 ・保護者、児童アンケートともに、安全指導の質問事項については、97～98%の肯定的な回答を受けることができた。 ・校内での重大事故は0だったが、廊下や階段を走っている児童が多く見られた。	・休み時間や教室移動をするときに、階段や廊下を走っている児童がいるため、日々の指導や、いろんな教職員からの声かけを続けていく。 ・今年度より、安全点検を電子化したのが、安全点検が遅れることがあったため、漏れないように事前事後の声かけをする。	・1年を通して、大きな事故なく、子どもたちが元気に過ごせていることに感謝したい。引き続き、安心・安全な学校づくりに努めてほしい。 ・登校時の交通事故があったので、日常的に、交通ルールなどに話をしていたくなどは効果的ではないかと思う。		

学校関係者評価総括

- ・不登校が少ないのは高く評価できる。引き続き、児童が安心して登校できる学校づくりを期待したい。
- ・非認知能力の育成について、教職員全員が共通理解し、意識して取り組んでいくことが必要である。
- ・未来を担う子どもたちの育成のために、保幼小・小中の縦の連携の充実を期待する。
- ・自己評価で「C」が3つと厳しいものの評価となっているが、Bでもよいのではないかと思う。アンケート項目の見直しにより、目標値の設定も難しかったかもしれない。
- ・達成目標の数値が下回るとCということであれば、どうなればAなのかということになる。B目標とA目標の2つの目標を設定して評価してもよいのではないが。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・「ねばり強さ」や「自己肯定感」等の非認知能力の育成
- ・「わかった」「できた」を「学ぶことが楽しい」につなげる授業力の向上
- ・一人一人の子どもたちを大切にしたかわり、安心して過ごせる学級・学校づくり
- ・すべての児童が安心して過ごし学べる特別支援教育の推進

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った